



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 大阪市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	全学年
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( 全校集会 )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>困難に遭遇した時、乗り越える気持ちになる為に大切なこと。又、努力を続ける力を身につける為に必要なことを、体験された話を通して学ばせたい。</p> 
5 取組内容	<p>事故の体験を踏まえ、これまで考えこらてきたことから、現在パラリンピックのアーチェリー選手として出場を目指して頑張っていることを、「Parallel Life」(もう一つの生き方)という題をつけ、全校生徒に対して講話していただいた。</p> <p>また、実際にアーチェリーに触れさせてもらったり、近距離からの試射を実演していただいた。</p> 

生徒が弦を引っ張っているところ



模範演技で、畳に向かって近距離から試射をさせていただいているところ

講演の最後には、生徒を代表して生徒会より、東京 2020 パラリンピック出場を祈願し、全校生徒で作成した千羽鶴を手渡した。



## 6 主な成果

大変な事故に遭遇しながらも、これからの人生を前向きに捉え、やりたいことに挑戦し活躍し続ける姿勢に感動を覚えると共に、自分の姿勢と照らし合わせることで、自分自身に足りないことを深く感じ取っていた。特に3年生は受験を控え、自分自身がこれから辛く苦しいことから逃げないようにするために、江口さんの前に列を作ってサインを求めるなど、自分自身に立ち向かう姿勢をもつことができた。た、アーチェリーと言う競技に関心を持ったという生徒が増えた。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>事前の打ち合わせの中で、天満中学校の生徒たちで気になる点として、苦しいことや辛いことからすぐ逃げ出すといった実情をお伝えした。講演ではその点を踏まえた内容にさせていただいた。またアーチェリーの実物に触れ、実射を見せていただくなどの工夫も行っていた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>全校生徒対象で講演できたので、1年生以外にもオリンピック・パラリンピックに興味関心を広めることが出来た。しかし、個別に直接話をしたいと言う生徒が多かったが、その時間を考えていなかったため、直接の触れ合いが実現できなかった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	